

Case : 427

ラップの芯で代用したブレーキ延長棒がテーブルに引っ掛り動けなくなる

場面の説明

車いすを自走する際に、ラップの芯で延長したブレーキ操作棒がテーブル角に干渉し、ブレーキがかかってしまったことに気づかず、無理に進もうとして転落しそうになる



利用シーン 移動

主な利用場所 ダイニング・食堂

介護保険の種目 車いす

分類コード (CCTA95) 122106(後輪駆動式車いす)

介護テクノロジー -

二次元バーコード



解説

片麻痺の利用者が車いすを自走する際、麻痺側ブレーキを操作しやすくするためにラップの芯などでブレーキ棒を延長することがありますが、テーブルなどに干渉し意図せずブレーキがかかってしまうことがあります。転倒や転落のリスクが高まりますので、延長は基本的にメーカーの純正部品を使用し、ラップの芯等で工夫する際にもテーブルなどとの干渉を事前に確認しましょう。

参考要因

- 人：麻痺側に注意が払われていなかった
- 人：誰もがやっている工夫なので、危険を予測していなかった
- 人：延長したブレーキ棒がテーブルに干渉する可能性を意識できなかった
- モノ：ラップの芯で工夫したブレーキ延長棒が長すぎた
- 環境：通路が狭く延長棒が周囲の家具と干渉しやすかった
- 管理：ブレーキ延長の方法や安全確認が現場まかせになっていた